

災害復旧事業によせて

## 平成18年災 天竜川河川災害復旧助成事業に ついて



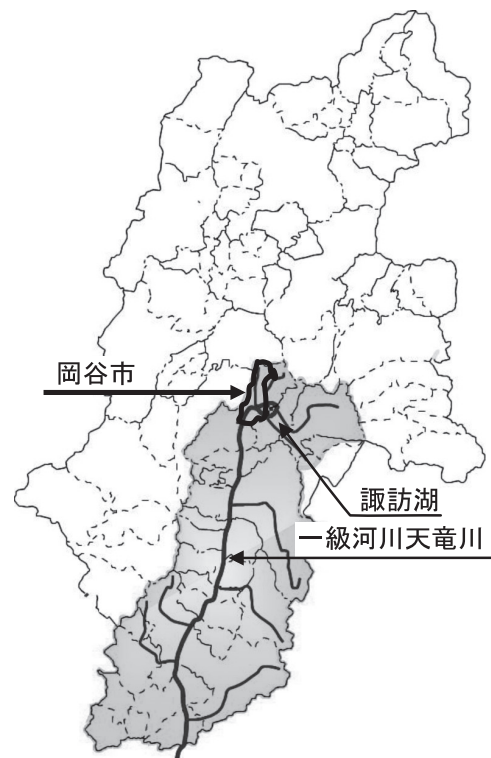
長野県岡谷市  
市長  
今井 竜五

### 1. はじめに

東北地方太平洋沖地震でお亡くなりになられた大勢の方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、同じ長野県で発生した長野県北部の地震・東北地方太平洋沖地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

岡谷市は、長野県のほぼ中央に位置し、諏訪湖の西岸に面するとともに、西北には塩嶺王城県立公園、東には八ヶ岳連峰、遠くには富士山を望む、湖と四季を彩る山々に囲まれた風光明媚な都市です。また、諏訪湖唯一の排水口（釜口水門）を有しており、ここより天竜川が発し、遠く静岡県浜松市へと達しています。

市の人口は5万2,556人（平成23年5月1日現在）、面積は85km<sup>2</sup>で、明治時代から昭和初期にかけて日本の近代化を支えた生糸の都「シルク岡谷」として世界にその名を馳せ、戦後はその産業基盤をもとに「東洋のスイス」と言われる精密工



位置図



諏訪湖の西岸に広がる岡谷市

業都市として発展してきました。そして現在は、「ものづくりのまち」として、これまで培ってきた精密加工技術を最大限に活用し、21世紀型技術体系の基盤をなすナノテクノロジーをベースとした「スマートデバイスの世界的供給基地」の形成を目指して歩んでいます。

気候は、典型的な内陸特有の気候であり、盆地特有の昼と夜の気温の差が大きく、年間降水量も1,200mm程度であり、過去に河川の氾濫などはあったものの、大きな土砂災害に見舞われたこともなく、これまでは自然災害の少ないまちとされてきました。

### 2. 未曾有の平成18年7月豪雨災害

平成18年7月、諏訪地域では昭和58年の台風10号災害以来23年ぶりとなる豪雨に襲われました。

平成18年7月15日以降、梅雨前線は本州付近に停滞し、南からの暖かく湿った空気の影響で梅雨前線の活動が活発となり、長野県内では18日夕方から岡谷市を中心に各地で記録的な雨となりました。アメダス諏訪観測所では7月15日から19日の総降雨量が391mmに達しましたが、これは7月の降水量平年値203.7mmの約2倍という雨量でした。

諏訪湖では、この未曾有の豪雨に伴う洪水により、平成18年7月19日9時から21時まで、約12時間にわたり湖面水位が計画高水位を上回りました。また、天竜川では、平成18年7月18日22時30分に全ての観測所ではん濫注意水位（警戒水位）を超過しました。

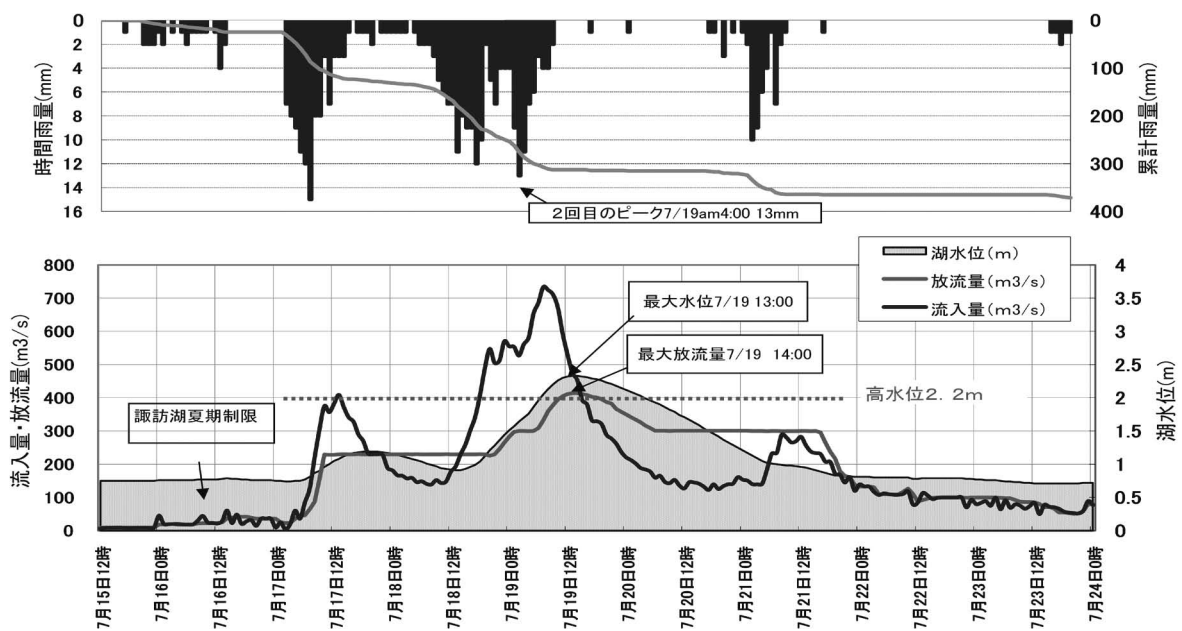
諏訪湖周辺では、多くの流入河川で溢水氾濫が発生し、560haの浸水被害と2,500戸を超える床上、床下浸水の被害を受けるとともに、岡谷市湊から川岸地区にかけて同時多発的に土石流災害も発生し、8名もの尊い人命が奪われるなど、市民の生命や財産に甚大な被害を及ぼしました。



土石流の状況



増水した天竜川の状況



釜口水門（諏訪湖）の水位・流入量・放流量及び雨量の状況

### 3. 天竜川河川災害復旧助成事業の実施

今回のような洪水による被害を防止するためには、諏訪湖から天竜川までを一体的に整備することが必要であり、長野県では「平成18年7月豪雨」と同規模の洪水に対し、再び洪水被害が生じないよう、下記の3つの基本方針に基づき、国とも連携して整備を行うこととなりました。

#### 【基本方針】

#### ① 釜口水門の放流量の増加

諏訪湖からの唯一の放流口である釜口水門の操作規則の見直しを行い、釜口水門からの最大放流量をこれまでの400m<sup>3</sup>/sから430m<sup>3</sup>/sへ増加させ、平成18年7月豪雨と同規模の洪水が再来しても、諏訪湖の水位を計画高水位以下となるようにします。

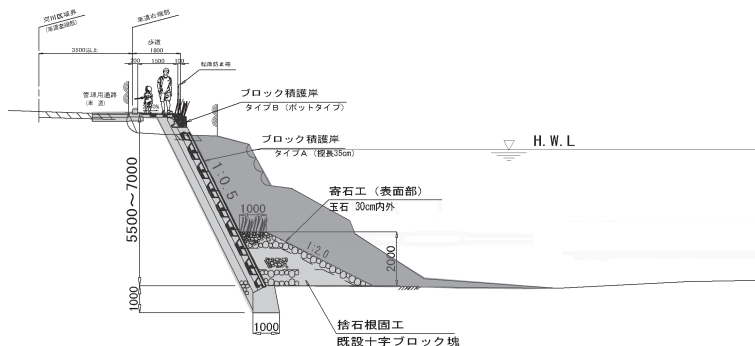
#### ② 天竜川の河道改修

平成18年7月洪水と同規模の流量と、釜口水門からの放流量増加に対応した流量を安全に流下できるように河道改修を行います。

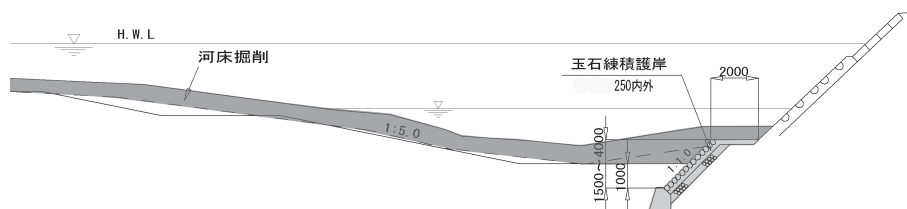
#### ③ 諏訪湖流入河川の水門設置・河道改修

諏訪湖に流入する河川では、諏訪湖からの逆流を防止するための対策や、流入河川の氾濫を抑制するための対策を行います。

上記の基本方針に基づき、上流の諏訪湖及び流入河川については、「河川激甚災害対策特別緊急事業」で対応するとともに、天竜川の県管理区間は「天竜川河川災害復旧助成事業」で、辰野町から下流の国管理区間のうち伊那市までの約20kmは「直轄河川激甚災害対策特別緊急事業」により、一体的な整備を行うこととなりました。



【西天竜堰上流区間】(河道掘削+ブロック積護岸+寄石根固工)

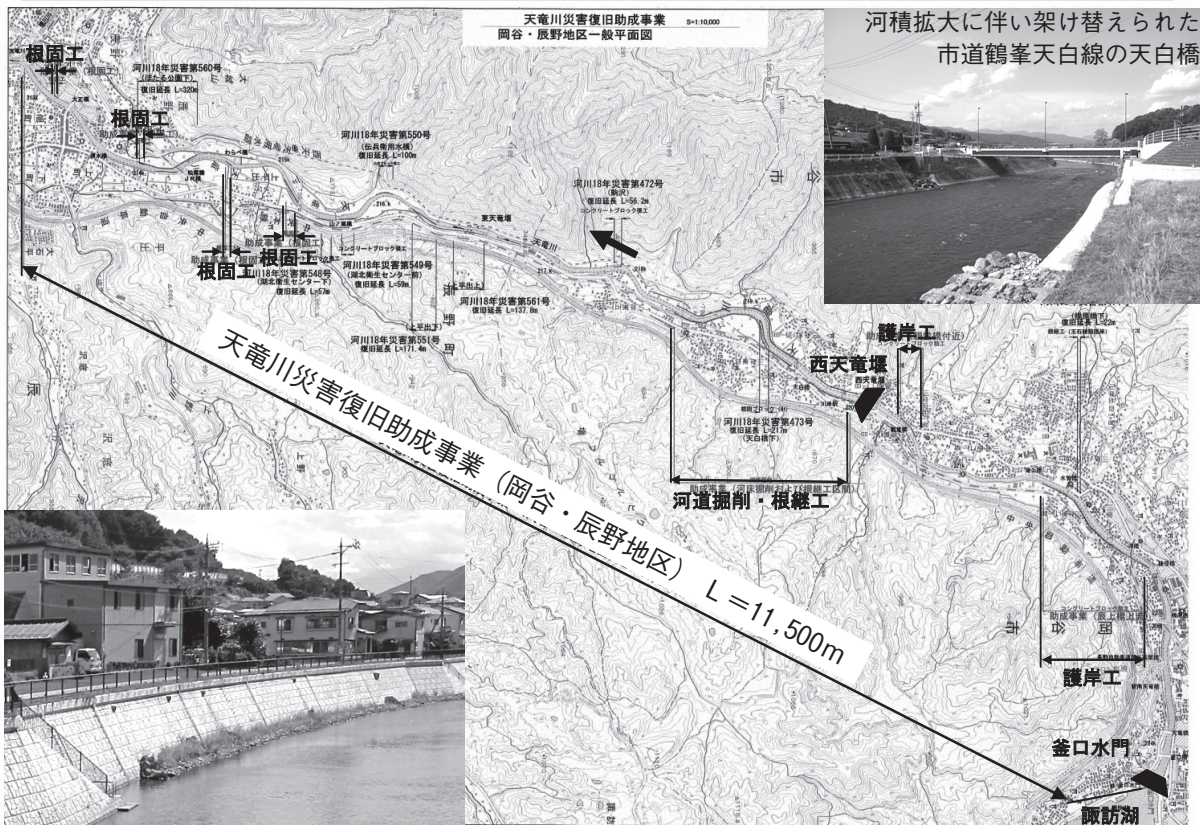


【西天竜堰下流区間】(河道掘削+玉石積根継工)

【天竜川河川災害復旧助成事業  
(岡谷・辰野地区) の概要】

○事業区間  
上伊那郡辰野町下辰野～岡谷市湊 (釜口水門)

- 計画延長 L = 11.5km
- 事業内容
  - ・河道掘削 L = 2.6km
  - ・根 固 工 L = 1.0km
  - ・護 岸 工 L = 3.6km
- 事業費 21 億 2 千 2 百万円



護岸前面に寄石根固工を施工して親水性に配慮

天竜川災害復旧助成事業 (岡谷・辰野地区11.5km)

また、県と諏訪地域の市町村では「水害に強いまちづくり協議会」を発足させ、計画的かつ着実な浸水被害の軽減を目指し、ソフト対策を含めた水害に強いまちづくりを推進することとなりました。

天竜川河川災害復旧助成事業では、主に河道掘削による河積の拡大、これに伴う護岸の整備が行われました。

天竜川の岡谷市川岸にある西天竜堰を境に上下流で河川特性が異なるため、各区間の特性に応じ工法が選定されました。

西天竜堰上流区間では、勾配が1/930程度で流

速も遅く、堰の影響で常に一定の水深が保たれていることから、河道掘削を実施するとともに、これに伴って設置する護岸前面に寄石根固工を施すことで親水性にも配慮していただきました。

西天竜堰下流区間では、勾配が1/300程度以下に急変し、河川の蛇行に合わせて交互に砂州が形成されるなど変化に富んだ河川環境であることから、現況の横断形状を踏襲した河道掘削を行うことにより、河川環境の保全に配慮していただきました。

なお、既設護岸の前面を掘削する箇所には玉石積構造の根継工を施工していただきました。

#### 4. 岡谷市における防災対策強化の取り組み

岡谷市では、一日も早い災害復旧と「災害に強い安全・安心なまち」を目指して、活動体制、情報収集・伝達体制、防災対策等の強化のため様々な取り組みを行っています。

##### (1) 活動体制の強化

災害の発生が予想される早い段階から、情報の収集、情報を共有する体制を整えるとともにレベル毎の活動基準、実施事項を明確にすることにより、スムーズな体制移行および対応が実施できるよう活動体制を強化。

##### (2) 情報収集・伝達体制の強化

今回の災害の最も大きな教訓は、情報収集・伝達体制の重要性でありました。その教訓を無駄にすることなく、次のような取り組みを行い、情報収集伝達体制を強化。

###### ① 地域との連絡体制の強化

市と各区との相互連絡をよりスムーズに行うため、地元地区に居住する市職員を中心とした「地域連絡員」を各区へ派遣する体制を整備。

###### ② 雨量計の設置

局地的な雨量情報を瞬時に把握するため、市内の計8箇所に市独自の雨量計を設置し、パソコン、メールにより降雨状況を把握する体制を整備。

###### ③ 避難準備、避難勧告の雨量基準を新設

活動体制や、避難準備情報、避難勧告などを

発令するための一つの目安として、時間雨量、累計雨量による雨量基準を設定。

###### ④ 防災ラジオの配布

防災行政無線の降雨時における聞き取りにくさや難聴地域の解消を目的として、防災行政無線を自動受信できる「防災ラジオ」を希望する住民に1台1,000円で配布。

###### ⑤ 防災メールの配信

市全職員や希望する住民に対し防災行政無線の内容や気象警報注意報、地震情報などをパソコン、携帯電話にメール配信できる体制を整備。

###### ⑥ シルキーチャンネル(行政チャンネル)の開局

地域ケーブルテレビを利用した行政チャンネルの放送を開始し、災害時、住民に対して的確な情報を提供できる体制を整備。

##### (3) 防災対策の強化

###### ① 自主防災組織連絡協議会の発足

自主防災組織の活動の充実を図るため、組織間における協力体制の整備、連携の強化を目的に、岡谷市自主防災組織連絡協議会が市内21区の参加を得て発足。

###### ② 災害危険溪流市民見学会、豪雨災害パネル展の開催

被災後毎年、市民見学会及び豪雨災害パネル展を実施し、多くの住民が参加し、災害の現場や、復興の様子を見学することにより、災害の大きさなどの理解を促進。

#### 災害情報および避難情報発令の方法

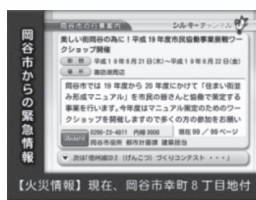
防災行政無線、防災ラジオ、防災メール、シルキーチャンネルにより、災害時などの緊急情報を迅速に市民のみなさんに提供します。



防災ラジオ



防災メール



シルキーチャンネル

#### 岡谷市が発令する避難関係情報

##### 避難準備情報

人的被害の発生する可能性が高い

##### 避難勧告

人的被害の発生する可能性が明らかに高い

##### 避難指示

人的被害の発生する危険性が非常に高い

③ 防災訓練の実施

毎年、土石流災害を想定した「土砂災害に対する全国統一防災訓練」を諏訪建設事務所、区等と合同により実施。

④ 災害に強い森林づくり

岡谷市では長野県が策定した「災害に強い森林づくり指針」に基づき、防災機能を果たす森林づくりとして、間伐の促進、広葉樹林造成事業による適地適木事業などの取り組みを実施。また、森林整備事業の説明会や講習会などを通じ地域住民や森林所有者への普及啓発を図りながら、森林整備を推進し、森林の機能を強化。

5. おわりに

被災直後より全国各地から、寄せられた温かいご支援、ご援助に対し、深く感謝申し上げます。

また、被害住宅の復旧や被害調査に当たりまして、多くのボランティアの皆様や近隣市町村の皆様、そして被災地の早期復旧のため迅速な対応や指導をいただいた国・県をはじめ関係機関の皆様に、改めて感謝申し上げます。

今回の天竜川河川災害復旧助成事業をはじめ、災害復旧事業が無事完成したことにつきましても、併せて感謝申し上げます。

岡谷市では、被災者の一日も早い生活再建のため、市独自の「豪雨災害被災者支援金制度」の創設をはじめ、国や県との連携、協力のもと様々な復旧、復興対策を実施するとともに、道路や橋梁、河川、学校施設等の公共施設などハード面の整備を含め、引き続き防災対策の強化に努めてまいります。

お知らせ

## 平成23年度災害復旧実務講習会 延期のお知らせ

6月に開催する予定でありました「平成23年度災害復旧実務講習会」については、諸般の事情により9月以降に再延期させていただきます。